

## 自然環境への配慮

三篠川の特徴として、特別天然記念物である両生類のオオサンショウウオや重要な種として魚類のスナヤツメ南方種などの希少生物が確認されています。

災害復旧助成事業の実施にあたっては、特にこうした環境面に留意する必要があるため、河川環境調査を行うとともに、多自然川づくりアドバイザーや学識経験者等の意見を伺いながら事業を進めていきます。

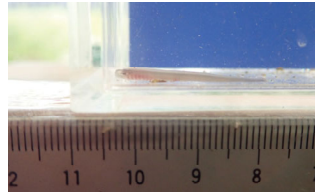


多自然川づくりアドバイザーによる現地視察



オオサンショウウオ

(2019年5月撮影)



スナヤツメ南方種

(2019年9月撮影)

## 景観への配慮

三篠川のもう一つの特徴として、随所に岩盤が露出した河川であることがあげられ、景観上重要なポイントとして認識されています。

災害復旧助成事業の実施にあたっては、こうした景観に配慮して整備を行います。



三田小学校前の岩盤が露出している風景

(2019年4月撮影)

## 住民説明会の開催

災害復旧助成事業の実施にあたっては、流域の皆さんの御意見を伺うための住民説明会を開催し、事業を進めていきます。



住民説明会



住民説明会

## もしも!の時に役立つサービスを提供しています

広島県河川防災情報システム <http://www.kasen-bousai.pref.hiroshima.lg.jp/rivercontents/>

災害から命を守るためには、災害発生の危険性を察知することが重要です。

広島県河川防災情報システムは、県内に発表された大雨・洪水・高潮の気象情報、県内の雨量・河川の水位などの情報をリアルタイムで見ることができます。

いち早く、災害発生の危険性を察知し、安全の確保を第一とした行動をとっていただくをお願いします。



スマートフォンサイト



携帯電話サイト

お問合せ

広島県 西部建設事務所 〒732-0816 広島市南区比治山本町16-12  
電話番号:082-250-8151(代表) / Fax:082-255-3010  
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/207/>

Ver. 2 (2021(令和3)年2月時点)

## 平成30年7月豪雨災害

# 一級河川太田川水系 <sup>みささ</sup>三篠川 災害復旧助成事業概要





## 三篠川流域の概要

三篠川流域は、太田川流域の下流東部に位置し、広島市、東広島市、安芸高田市の3市にまたがります。

流域は、三篠川、奥迫川、小河原川、関川等の15河川から構成され、流域面積は274km<sup>2</sup>、幹川流路延長は42km(うち、広島県管理区間33km)となっています。



## 平成30年7月豪雨の状況

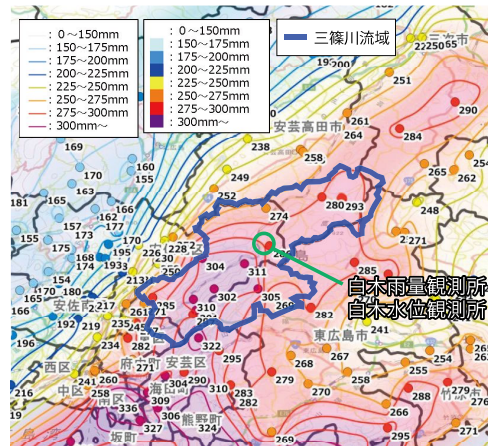
梅雨前線が西日本に停滞し、温かく湿った空気が流れ込んだため、広島県では平成30年7月6日昼過ぎから7日朝にかけて大雨となり、県内全23市町のうち、安芸太田町を除く22市町に県内初となる大雨特別警報が発表されました。

平成30年7月6日12:00～7日12:00の24時間雨量は、県の南西部、南東部、北東部で200mm以上を観測し、三篠川流域の特に多いところでは、300mm以上を観測しました。

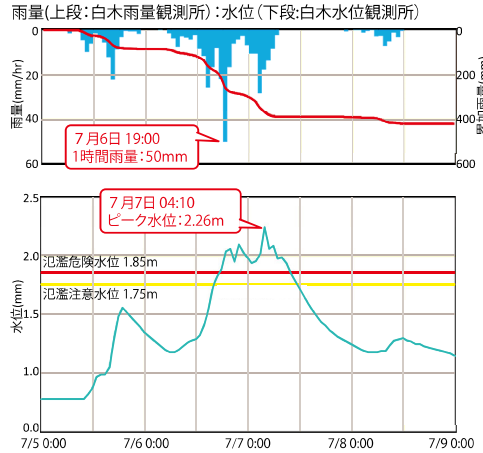
1時間雨量ピーク値は白木雨量観測所において50mmを観測するとともに、5日0:00～8日23:00までの累加雨量は400mmを超えました。

白木水位観測所では、氾濫危険水位(1.85m)を超過し、近年(2002年以降)の最高水位(2.26m)を観測しました。

### 平成30年7月豪雨雨量分布



### 平成30年7月豪雨雨量(上段:白木雨量観測所)・水位(下段:白木水位観測所)



## 被害の状況

この豪雨により、広範囲において溢水や越水による家屋等の流出、護岸崩壊、橋梁の損壊といった甚大な被害が発生しました。

県管理区間における浸水面積は約234.5ha、浸水家屋は343戸に達し(いずれも氾濫シミュレーション結果による)、護岸等施設被害は48箇所、約19kmに及びました。

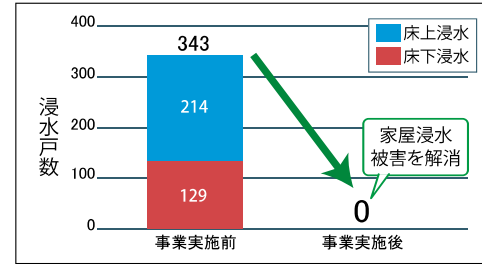
また、JR芸備線の橋梁を含む6橋で落橋被害が発生したため、鉄道や道路の寸断により通勤・通学をはじめとした県民生活に多大な影響を及ぼしました。

## 災害復旧助成事業の概要

この度の被害に対し、災害復旧事業による原形復旧のみでは事業効果が限定され、同程度の洪水によって、同様の被害が発生する恐れがあることから、改良復旧(災害復旧助成事業)により流下能力を向上させ、平成30年7月豪雨洪水相当の流量に対する家屋浸水被害の解消を図ります。

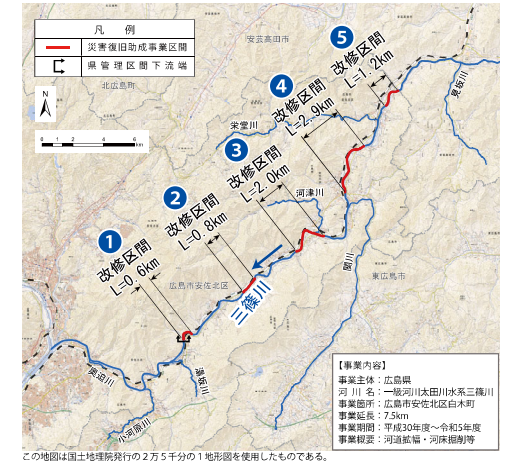
災害復旧助成事業の計画の目標を達成するため、県管理区間の中で家屋浸水被害が顕著な5区間を設定し、平成30年7月豪雨洪水相当の流量を河道内で流すため、「河道拡幅」「河床掘削」等を行います。

## 事業効果

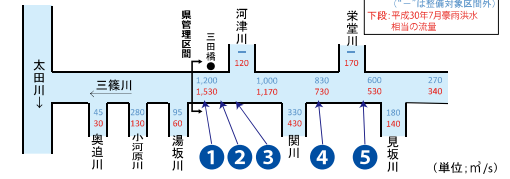


※浸水戸数は氾濫シミュレーション結果による

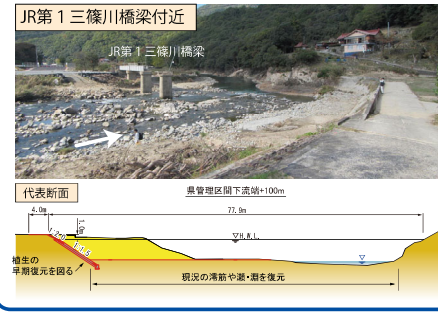
## 改修区間図



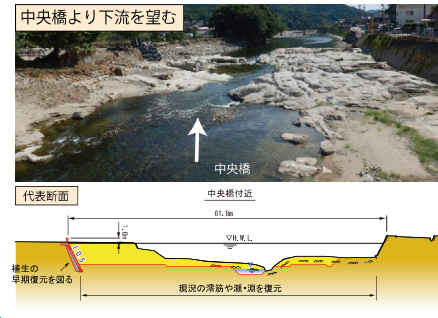
### 流量配分図



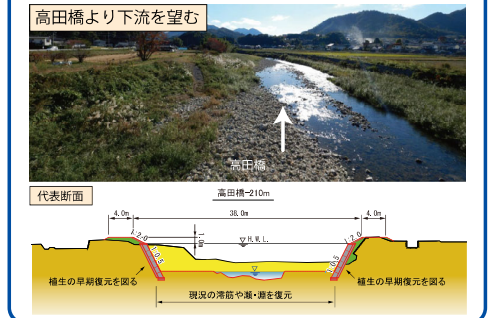
### 1 県管理区間下流端～三田橋



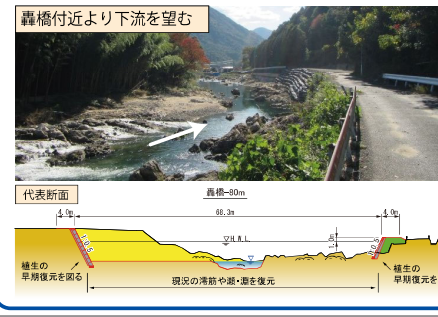
### 2 竜王橋上流～栗原頭首工



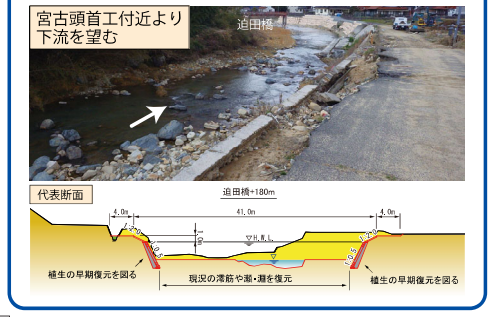
### 4 川角無連寺頭首工～松田頭首工



### 3 八幡橋～三篠橋



### 5 福田頭首工～宮古頭首工上流



凡例: 掘削: 盛土: 現況の川の形: 整備を行う形

護岸の構造は現場の状況等により変更になる場合があります。